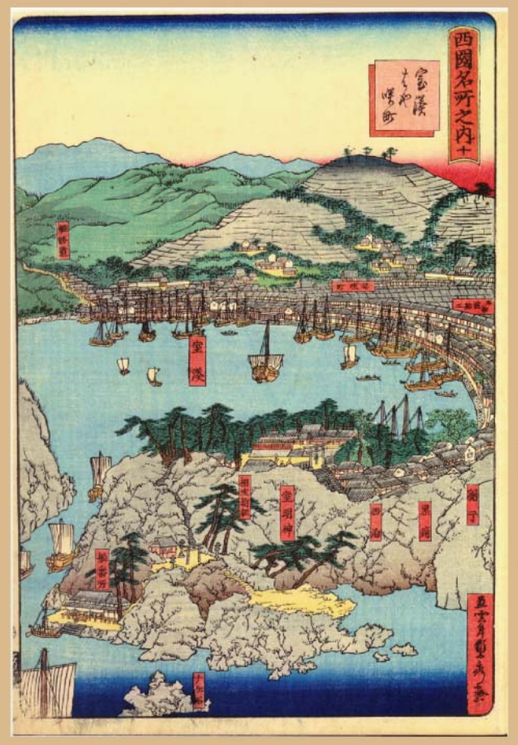
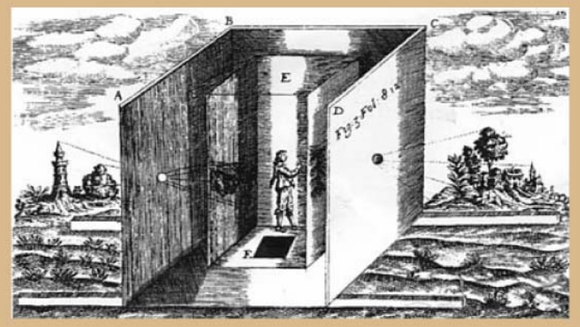
# 風景の 楽しみ方




古くから人々は風景を楽しんできました。江戸時代には、絵師が諸国を廻り名所を描いたものを、旅行ガイドブックの様にしていました。明治時代になってカメラが普及すると、絵葉書や写真集が多く出版され、絵とは違った風景の楽しみ方「撮る」が流行します。今のデジカメのように、いくらでも撮れるわけではないので、被写体を選び、構図を考え、その場の雰囲気をどう伝えるかよく考えた写真が多いことが、古写真の特徴です。

自分だったらどう撮るか？を楽しんでみてください。



江戸時代には「名所図会（めいしょずえ）」と呼ばれる風景画が人気でした。左の絵は「西国名所図会（さいごくめいしょずえ）」というもので、西国街道に沿って各地の名所が描かれています。

写真と違って見えないものも描けるため、地域の名所が全て描き込まれています。写真になるとそうはいきませんから、一番美しい構図を考えることになります。

また、絵を立体にして楽しむことも流行りました。「立版古（たてばんこ）」と呼ばれるもので、江戸時代のペーパークラフトです。

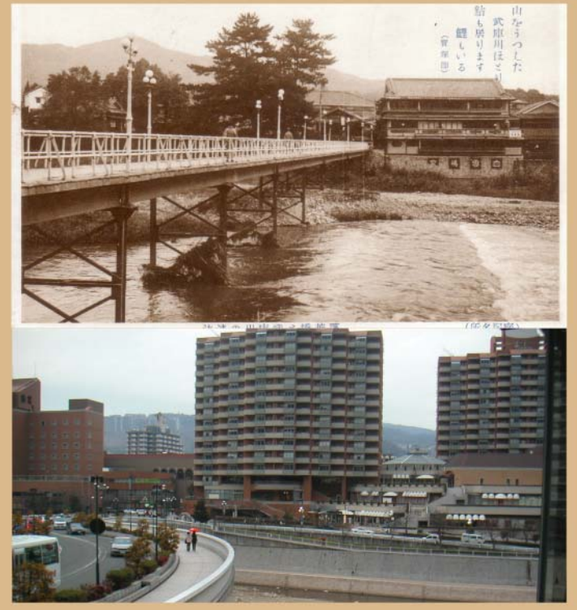
左の写真は「摂津名所図会（せっつめいしょずえ）」に描かれた「兵庫生洲（ひょうごいけす）」を立版古にしたものです。自分で組み立てながら風景を楽しんだり、できあがってからもいろんな箇所が動いたりと、いっぱい工夫されています。これは、ギャラリートークの参加者に配布します。

今から1000年前に考えられたと言われている、カメラの原型「カメラオブスクラ」（ラテン語で「暗い部屋」の意味）。暗い部屋に小さな針穴（ピンホール）を開けて、そこから差し込む光を反対側の壁に映す、光の直進性を利用した原理です。

企画展講座では、この原理を小さく再現したもので、針穴写真機を作り、暗室で現像します。

日本でも明治時代以降になると、各地の写真を絵葉書にしたものが売られました。その時代に美しいと言われた風景を切り取っているので、今の風景と比べて違いをしらべることもできます。

右の写真は、上が昭和初期の宝塚市の温泉街にかかる「蓬莱橋」です。橋の向こうに２本、大きな松が生えているのが有名でした。下は現在の同じ場所の風景。背景の山並みは変わっていませんが、橋の向こうが大きく変わっていることがよくわかります。２本の松は、当時のものはもうありませんが、新しいものが後継として植えられています。



■企画展講座　「自分のカメラを作って写真を撮ろう」
～針穴写真機づくり講座～

3月25日(日)　１３時３０分から２時間程度
（現像などで延びる場合があります）

定員：30名
場所：博物館・深田公園　対象：小学校高学年～大人・ファミリー

■ギャラリートーク　展示を作った研究員が展示室でわかりやすく紹介します

2月18日(日)
3月18日(日)
4月15日(日)
5月20日(日)

場所：博物館2F企画展示室
時間：各日14:00から30分程度
※参加者に「立版古」（江戸時代のペーパークラフト）プレゼント